

## 故米林富男会員を悼む

中野 卓

米林先生は東洋大学社会学部の成立前よりの中心的存在でした。村研でも古くからの会員で、蒲郡の大会のときは同室の榮に浴し、夜更けまで日本社会学界の発達史裏話の昭和戦前から戦時中へかけての、尽きることのない生々とした物語を拝聴したものでした。

昭和三年東大社会学科を卒業。戸田貞三先生の分家慣行調査にも大切な役割を果たされ、大阪の別家慣行についても先駆的な調査をされました。漁村・山村などの調査研究（例えば「山村における親分子分制度」東洋大学紀要七、一九三六年）がある一方では、人口誌学的研究法（年報社会学三、一九三五年）社会誌学（社会学研究東京社会学研究会編、二、一九三六年）、ヤングの社会心理学の翻訳、とくにスミスの道德情操論の翻訳（二巻、一九四八―四九年）などの業績をあげられました。一時は出版業に従事し、有賀先生の「日本婚姻史論」（一九六八年九月、著作集第六巻として未来社より再刊）なども米林先生の日光書院から敗戦直後の一九四八年に、当時学術出版に渴えていたわれわれへのたまものだったので、東洋大学において先生のもとで成長された若い研究者たちの研究領域は都市にも村落にも及んでおり、村研におけるその方々の活躍によって、田辺寿利・鈴木栄太郎そしてまた今は米林富男と、重要な社会学者を擁した東洋大学が村落社会学研究の上に更に大きく指導的役割を果たされることを念じ、米林先生の御冥福を祈ります。